

関係各位

令和7年度
在宅歯科人材育成支援事業研修会

日時：令和8年1月11日（日）10：00～13：00

講師：国立大学法人大阪大学 歯学部

顎口腔機能治療学講座 准教授 野原 幹司先生

演題 『認知症高齢者の食支援～治らない嚥下障害への対応～』

《講演抄録》

これまでの嚥下リハは、どちらかというと脳卒中の回復期を中心にして発展してきた。そのメインは「訓練・機能回復」であり、そこで嚥下リハに関するさまざまなエビデンスが出され、嚥下リハは目覚ましい進歩を遂げた。一方、認知症は慢性経過をたどる進行性疾患である。すなわち「慢性期＝回復が頭打ち」であり、それどころか進行性疾患であるが故、徐々に機能低下を生じる。したがって認知症のリハは機能の回復ではなく、今ある機能を活かして生活の質を改善することに重きが置かれる。要するに、脳卒中回復期の嚥下リハは「ケア＝訓練で治す」というストラテジーであるのに対し、認知症の嚥下リハは「ケア＝今の機能を最大限に活用できるよう支援する」という発想の転換が必要となる。

今回の講演ではアルツハイマー型とレビー小体型認知症の嚥下障害の特徴・対応法を解説する予定である。参加された方々が認知症高齢者の食支援に興味を持って頂ければ幸甚である。

場 所：沖縄県口腔保健医療センター 大研修室 ※WEB配信無し

対 象 者：歯科医師・歯科衛生士・介護職等

参 加 費：無料

申込締切：令和7年12月26日（金）

事務局へ下記申込書記載のうえ、FAXにて（098-996-3562）お申し込み下さいよう宜しくお願ひ致します。

令和7年度在宅歯科人材育成支援事業研修会（1/11）【申込書】

医 院 名	ご 氏 名	職 種	電 話 (連絡先)

申込先：沖縄県歯科医師会FAX(098-996-3562)

略歴

野原幹司（のはらかんじ）

1997年 大阪大学歯学部歯学科卒

2001年 大阪大学大学院歯学研究科修了 博士号取得（歯学）

2001年 大阪大学歯学部附属病院 頸口腔機能治療部 医員

2002年 大阪大学歯学部附属病院 頸口腔機能治療部 助手（2007年より助教） 兼 医長

2015年 大阪大学大学院歯学研究科 頸口腔機能治療学講座 准教授

現在に至る

NPO 法人 摂食介護支援プロジェクト 理事

一般社団法人 日本在宅薬学会 理事

NPO 法人 PDN 理事

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 評議員 専門療法士

老年歯科医学会 認定医 専門医 指導医 摂食機能療法専門歯科医，評議員

日本栄養治療学会 認定歯科医，日本口蓋裂学会 認定師

専門分野

摂食嚥下障害，栄養障害，音声言語障害，睡眠時無呼吸症，口腔乾燥症

所属学会

Dysphagia Research Society（米国嚥下障害学会）

日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本静脈経腸栄養学会，日本在宅医学会，

日本老年歯科医学会，日本口腔外科学会，日本口蓋裂学会

American Cleft Palate-Craniofacial Association（米国口蓋裂学会），等

著書

- 訪問歯科診療ではじめる摂食・嚥下障害へのアプローチ（植松宏監修），医歯薬出版。
- 介護に役立つ口腔ケアの基本，中央法規出版。
- 言語聴覚士のための呼吸ケアとリハビリテーション，中山書店。
- DVD & BOOKLET 摂食・嚥下障害検査のための内視鏡の使い方，医歯薬出版。
- 認知症患者の摂食・嚥下リハビリテーション，野原幹司編著，南山堂。
- 終末期の摂食嚥下リハビリテーション～看取りを見据えたアプローチ，全日本病院出版会。
- 月刊薬事 2017年7月号 嚥下機能を考慮した薬物治療実践メソッド，じほう。
- 認知症患者さんの病態別食支援，メディカ出版。
- 薬からの摂食嚥下臨床実践メソッド

他多数